



# 第3学年通信

VOL.33  
2018.11.15(木)

センター試験まで、明日から数えてあと64日となりました。以前も述べたように、「現役は最後まで伸びる」と言います。したがって、最後の受験日までモチベーションを維持することが大切になりますが、そのために必要なのは**正しい高校生活を続け、適切なリズムを維持すること**です。万が一、「学校に行かず自分だけで勉強している方が受験勉強の時間がとれる」と考えてしまう人がいたら危険です。なぜなら、朝起きた時と同じ環境の中では切り換えスイッチが入らず間延びした時間が増え、結局学習時間は大して増えないばかりか、学習の質も下がるケースが多いからです。また、1人だけの環境は焦りを募らせ、思った以上にメンタルを消耗させます。学習リズムだけでなく生活リズムも崩してしまい、本番で力を発揮できないということになりかねません。さらに、必要な情報を得ることができず、思わぬ落とし穴に陥ることさえあります。焦って明け方近くまで勉強し、その後何日も体調とリズムを崩すという事態も避けたいところです。いづれにせよ、この**時期こそ学校中心の生活を正しく続け、生活時間にメリハリを持たせてリズムを維持することが非常に重要**です。学校中心の生活時間は、受験というマラソンを最後まで走りきるペースメーカーの役割も果たすわけです。そもそも受験生である前に**高校生である、その原点を忘れずに生活することが受験成功にもつながる**ことを忘れずに生活してください。

12月3日(月)～7日(金)の午後に三者面談を実施します。第1志望校と併願校、受験スケジュールの最終決定に向けての重要な面談となります。詳細は各担任から案内が配布されますので、そちらを見てください。また、本人と保護者でよく話し合っておいてください。なお、上記の期間中、3年生は午前中授業、午後は放課となります。さらに、この三者面談に備え、11月29日(木)・30日(金)に、志望校検討会を進路指導部と3学年担任団で行います。それに先立ち、第1志望校と併願校について担任から本人に面談やアンケート等を通して聞くことがあると思いますので、よく考えておいてください。

これから受験までの勉強の集中力、自分の学力の伸びのチェック、受験大学・学部の難易度の把握、出題傾向の分析、受験までの健康管理とメンタルケア等、大学受験はそれらの**「総力を結集しての闘い」**です。今は苦しい上り坂かもしれませんが、**上り坂とはすなわち上昇中ということでもあります**。可能性を信じて最後まで走り抜きましょう。

## <参考> 外部模試の合格可能性判定

	ベネッセ	河合塾
A	80%以上	80%以上
B	60%以上 80%未満	65%
C	40%以上 60%未満	50%
D	20%以上 40%未満	35%
E	20%未満	20%以下

※業者により判定基準が異なります。  
※選択科目があって第1解答科目の指定がない大学の場合、模試では良い方の点数で判定が出されます。たとえば、地歴・公民から1科目選択となっていて自分が地歴と公民を1科目ずつ受験し公民の方が点数が良かった場合、公民で判定が出されます。

## 受験校・受験スケジュール決定に向けて(私立大学を中心に)

**挑戦校・実力相応校・安全校のバランス**を考え受験校と受験スケジュールを決定するようにしましょう。また、センター試験の方が点数が取りやすい人はセンター利用も積極的に活用すべきですが、安全校をセンター試験のみで固めるのは避けた方が無難です。センター試験で失敗した場合、全滅する危険があるからです。個別試験での入試を軸に、センター利用も加えて考えるのが一般的です。詳細は各担任とよく相談してください。また、**出願には学校が発行する調査書が必要になります。余裕をもって申し込むようにしてください。**

<参考> **結果を出すスケジュールリングの秘訣** 旺文社『蛍雪時代』11月号より

### 「万全の状態第1志望受験」を前提に日程を組み立てる

併願のスケジュールリングにおける最大の焦点は、第1志望校の試験日に最大の力を発揮できる受験日程を考えること。本命校の試験に支障が出ないように十分に注意して、日程を組み立てよう。

### 「易⇒難」の順序で受験して、徐々に自信を高めていく

受験校の難易度は、日程順に上がっていくのが理想的。最初の受験は、志望順位が低く、難易度も易しめの大学がよい。本番の試験の状況に慣れつつ、志望校合格への自信を徐々に高めていこう。

### 「詰めすぎず、空きすぎず」受験日の間隔を適正化する

適度な頻度・間隔の受験日程はよいリズムをつくるが、ずっと受験が続くようなスケジュールはコンディションを悪化させるので避けること。反対に、間隔が空きすぎると、実戦感覚が鈍ることも。

### 連続受験は2～3日にとどめ、体力・集中力をキープ!

特に地元から遠征して受験しに行く場合、複数校をまとめて受ける人が多いが、受験日の連続は最大で3日程度にとどめたい。それ以上続けると、疲労から試験中の集中力が低下する恐れがある。

### センター利用など別方式での受験日程の調整も考える

併願校どうしの試験日が重複したり、試験が何日も連続するときは、個別試験が不要のセンター試験利用入試に切り替えたり、全学部日程など別日程の入試方式での日程調整も検討してみよう。

### 受験期間でも学習日を確保し、最後まで実力向上を目指す

第1志望の受験に合わせて実力を最大化するには、落ち着いて学習に取り組める時間も必要だ。実力は最後に一番伸びる。受験シーズン中も学習日を確保し、「もうひと伸び!」を追求しよう。

## 直近の予定

- 11/17(土) 土曜補習 ※12/1(土)の土曜補習はなくなりました。
- 11/27(火)～30(金) 期末テスト
- 12/2(日) 全統センタープレテスト(会場:足利大)
- 12/3(月)～7(金) 三者面談